

水田たより 4月号

令和4年4月1日

JA みえきた
桑名地域農業改良普及センター

暑さに負けない稲づくりを！

■暖候期予報について

令和4年2月25日に気象庁が発表した暖候期予報（令和4年6～8月の気温予報）では、全国的に平年より気温が高くなると予想されています。水稲は、生育期間中に高温に遭うと白未熟粒や不稔の発生リスクが高くなり、特に8月に登熟期を迎える品種（コシヒカリなど）で影響が出やすいです。栽培時期によってできる高温対策が異なるので、以下の栽培技術を参考にできる対策に取り組みましょう。

播種前	移植時	出穂期まで	登熟期
・高温耐性品種の導入 ・ケイ酸資材の投入	・ <u>栽植密度の改善</u>	・早めの中干し ・耐暑肥の施用	・水管理 (間断かん水、かけ流し)

■白未熟粒対策

白未熟粒は、登熟期の高温条件下などで籾にデンプンが蓄積できなかった場合に、玄米構造に隙間ができることで生じます。

対策としてはさまざまな方法がありますが、時期別に分けて

- ①作付け時期など、登熟期が高温になるかわからない段階で対処する「**予防**」
- ②登熟期が高温になってから対処する「**治療**」

があります。今は「**予防**」時期にあたり、基本技術の励行が白未熟粒対策につながります。

今できる基本技術

密植、疎植を避ける（50～60株/坪）

※左記未満の疎植は、穂が大きくなりすぎて乳白粒が増加する原因となります。

⇒ 有効茎歩合の向上・・・ 籾数過多を防ぐことで、窒素不足を回避

⇒ 登熟期の窒素含有率の増加・・・ 特に登熟後半に窒素が不足することを防ぎ、未熟粒発生を抑制

また、今後できる対策として「水管理」や「肥培管理」で高温に備える方法もあります。

早めに中干しする

⇒ 上記の栽植密度で、茎数が16～18本/株で中干しを開始（6月～）

出穂期に耐暑肥を施用する

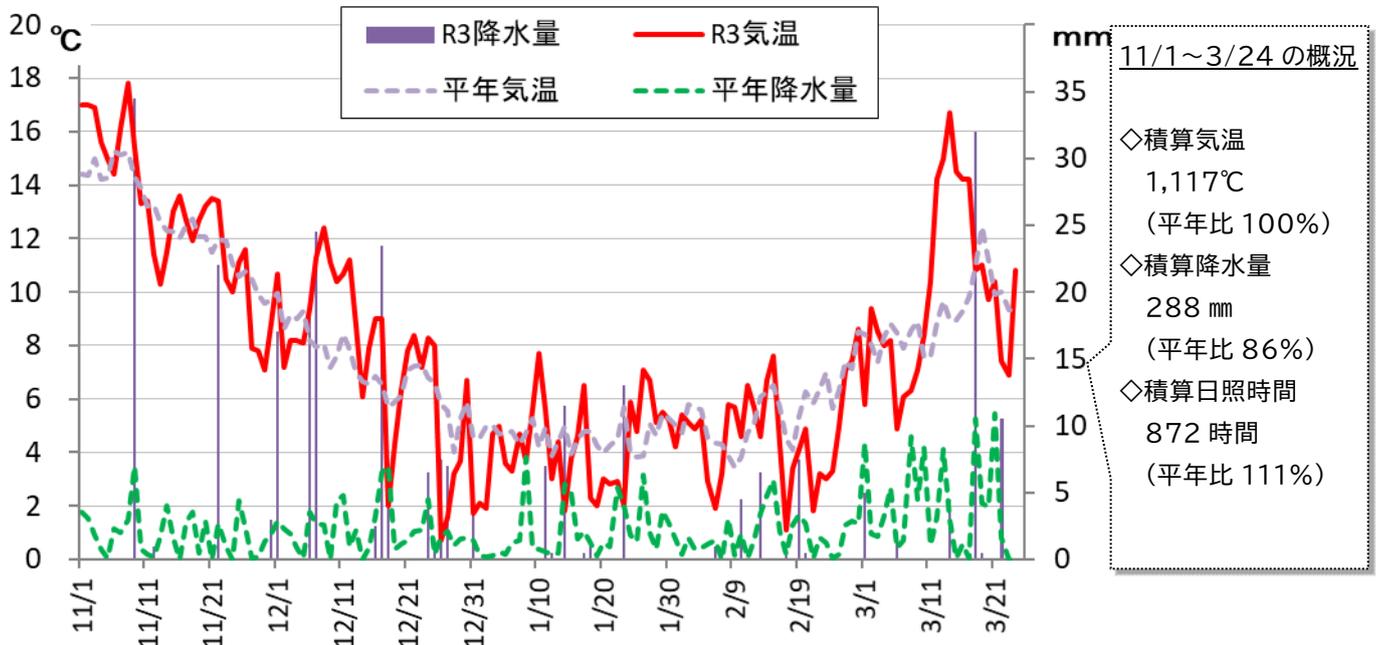
⇒ 出穂期に窒素 1kg/10a 施用（7月～）

他にも「間断かん水の実施」や「ケイ酸資材の投入（令和3年6月号参照）」も白未熟粒対策になります。対策の詳細は今後の水田たよりにて掲載予定です。

気象概要と麦の生育状況

■気象概況

11月～3月の気象は、降雪による低温の時期もありましたが、晴天時は気温が高めに経過し、期間中の積算気温は平年と同じになっています。3月に入り気温は急激に上昇しています。



■麦の生育状況と予想（11月上旬播種の場合、3月24日時点）

小麦・大麦ともに、茎数は平年並みに確保されています。草丈は平年より低いものの、葉齢は平年と同程度で、葉色は濃い傾向です。向こう1か月の天候は、暖かい空気に覆われやすいため気温が高くなる見込みで、麦の生育が順調に進み、出穂期は平年と同じ又は早くなると予想されます。

■向こう1か月の天候(名古屋地方気象台1か月予報、3月24日発表)

気温	降水量	日照時間
高い	平年並	平年並

■今後の管理

4月は赤かび病の防除時期です。出穂期（※）から約7～10日後の開花期が赤かび病の防除適期となります。防除効果を高めるため、麦の生育状況を確認し、適期に防除ができるよう計画を立ててください。

※出穂期とは、全体の40～50%の茎から出穂した時期です。ただし、1茎内で穂の先端が少しでも葉鞘から出れば出穂茎とみなします。

管内の生育基準田の出穂期予測（「麦生育予測システム」による）（3月24日時点）

品種	場所	播種時期	出穂期（平年比）	予想防除適期
あやひかり	いなべ市大安町	11月5日	4月17日頃 （4日早い）	4月25日頃
さとのそら	桑名市長島町	11月10日	4月12日頃 （1日早い）	4月20日頃
ファイバースノウ	東員町	11月5日	4月8日頃 （1日早い）	4月15日頃